令和4年度

学校自己点検・評価報告書

令和5年6月

学校法人朝日学園
成田国際航空専門学校

○令和5年度　学校自己評価について

　成田国際航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。
　本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

1. 対象期間
　令和4年4月1日　～　令和5年3月31日

◯委員会開催　令和5年5月31日（水）　15：10～16：20

2. 実施方法
（1）学内に「学校自己点検・評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っています。
　委員会構成：委員長　校長
　　委　員：教務課長、　航空整備学科長、グランドサポート学科長
（2）評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行いました。
（3）評価は年一回行います。
（4）評価結果は、課題と改善についてホームページにて公表します。

3. 自己評価は、以下の10項目を実施します。
（1）教育理念・目標
（2）学校運営
（3）教育活動
（4）学修成果
（5）学生支援
（6）教育環境
（7）学生の受入れ募集
（8）財務
（9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献

○評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標　　評価　４．０

（1）教育理念・目標　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	学校の教育理念は、就学規程に明記されている。 現教育理念「学徒の意志を尊重し、世を支える現場力を見据え、全人教育を旨とし、実践と反省と改善を継続し、自発力ある人材を育成する。（就学規程2条）」
2	学校における職業教育の特色を示しているか	4	航空分野に特化した科目の設定を行い、航空業界を担うグローバルな人材の育成を教育目標 としている。また、関連機関・企業との教育連携を通して実戦的な人材を育成することを特色としている。
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生･保護者等に周知されているか	4	学校の理念・教育目標、特色・将来構想などは、ホームページで公開され、学生・保護者を始め一般に周知されている。
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学校、学科の教育目標・育成人材像は、各学科において業界研究を行い、学科会議や教育課程編成委員会等を通して決定している。

【今後の改善方策】

1～5
・令和3年4月1日付けで経営母体である法人本部が変更となり（学校法人筑波研究学園から学校法人朝日学園）学校設置者を変更した。そのタイミングで学則、就学規程を改訂した。引き続き学生、保護者、教職員間の共通理解を図っていく。

（2）学校運営　　評価　４．０

（2）学校運営　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学校の運営方針 は「革新的かつ安定した経営により学生が勉強に専念できる環境を整備し、教職員が働きやす い環境を作るとともに、地元との共生を図り、当校の関係者すべてから愛され、誇りに思われる学校を目指します」と定めている。	
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は、将来構想、教育活動の実績を踏まえて策定され理事会・評議員会において承認を得ている。（令和4年度理事会にて令和5年度事業計画を承認）	2：航空専門学校として安定的な運営には若い教員の確保は欠かせない。又、教員採用にあたり、適切な人員計画の基に早目の人財確保が不可欠である。
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	学校の意思決定は、隔月の校務会議（必要により臨時校務会議）により決定されている。また、会議の運営については、業務実施要領「会議体要領 」に規定されている。	
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	学校の人事、給与に関する規程等は定められており、法人本部事務局において管理している。	4：人事・給与に関しては、種々の雇用形態があり、法人本部にて一括管理している。就業規則は各人に明示している。
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	学校の組織 整備等の意思決定は、校務会議での方針決定を経て法人本部で最終決定される仕組みとなっている。	
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	航空業界や 関連企業 等との関係は密接な連携や求人採用等を通した関係強化、社会規範の遵守を心掛けている。地域との関係は良好な関係を築いている。	6：地域との関係性維持のために、地域住民の意見に耳を傾け、騒音対策・学生マナーの向上等改善を継続していく。
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	情報公開は、ホームページ等で行っている。また、学校関係者評価、教員情報、職業実践専門課程認定学科基本情報（様式4）は年度毎に更新し、常にホームページ上で最新の情報を公開している。	7：引き続きSNS（ツイッター,インスタグラム）での情報発進を継続するが、教育風景を織り交ぜ、より分かり易い情報の発信を行っていく。
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学校法人の学校管理システムにより、学生の情報管理がシステム化されており、効率化が図られている。	

（3）教育活動　　評価　３．８

（3）教育活動　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	・教育課程は、教育理念に沿って編成・実施方針を策定している。 ・航空整備学科整備士コースは、『教育規程』、技術コースは『教育基準』にそれぞれ定めており、航空局への届出制となっている。グランドサポート学科は、『教育基準』に定めている。	1～3：教育課程は教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会、関連行政機関・第三者機関等から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。引き続き継続する。
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	教育達成レベルは、就学規程に記載されている。又、学習時間は学則・教育規程・教育基準に規定されており、それぞれ管轄省庁（文科省、航空局）に届けている。	
3	各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムは、学科別に教育理念を踏まえて体系的に編成している。	
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4～5： ・教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会、関連行政機関・第三者機関等から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。 ・昨年度は航空局への届出が必要な規程・基準以外の航空整備学科カリキュラム一般科目（＊）について見直しを実施した。 （＊）一般科目：SPI、英会話、危険物、自由研究課題等。	4～5：航空整備学科技術コースは訓練課程の認証を得ているが、令和4年度末で認可返上（発展的解消）を検討している。そのタイミングでカリキュラムの見直しを実施する。
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4		
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	・学科は各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。 ・昨年度（令和4年度）の実績 航空整備学科：コロナ禍の影響を受けたが、連携企業さまの協力のもと3社、8回 開催する事が出来た。＊令和3年度の実績は1回。 グランドサポート学科：5社、6回 開催する事が出来た。＊令和3年度の実績は3回。	6：各専門分野の職業教育を一層充実させていくためにも、関連行政機関、業界団体、企業等との連携を継続して図れるよう今後も柔軟に対応して行く。
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	・学生からの授業改善アンケートをもとにした授業評価体制が整備されている。 ・昨年度のアンケート実績 航空整備学科は全学年対象に36教科実施。 グランドサポート学科は1年生対象で11教科実施。 各学科にて学生よりの意見を参照し、今後の教育に活かしている。	7： ・授業評価実施後のフォローアップ体制を継続し 、カリキュラム充実に繋げていく。 ・アンケートの実施につき、可能な限り多くの教科で実施するよう取組んで行く。
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成員会を毎年度2回開催し、関連企業等からの評価を取り入れている。	

9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、専門学校設置基準をもとに就学規程で明確に定められている。また、省庁の認定学科においては定められた基準を遵守している。	
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	学科では、資格取得の指導体制、目標資格等に対するカリキュラムを体系的に構築している。また、放課後や休業期間中に対策授業等を実施し、実績向上に繋げている。	10: ・航空整備学科整備士コース:航空従事者養成施設として対象者全員の資格取得に向け取組んでいる。 ・上記以外の学科、コースに於いては、各種資格取得に向け取り組んでいる。
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	本校の教員体制は、省庁や検定協会などの認定要件を満たしている。	
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3	・各学科の教育内容に応じた教員確保は、かなり厳しいものの連携企業からの出向者にて対応している。 ・グランドサポート学科は、グランドハンドリング実習(1, 2年生)に企業から2名の講師を受入れ対応している。実績は週4時限で延べ54日間。	12: ・前述(2)学校運営2項と同様、ベテラン教官の交代要員として教員確保に向けた継続的な対応が必要で、多方面に働きかけを継続する。 ・グランドサポート学科では、引続き企業からの講師受入れを継続する。
13	関連分野における先端的の知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	・学校及び学科で研修計画を立て、教員の指導力育成、先端的な知識・技能等の習得を組織的に行えるよう整備を進めていて、業界団体や企業等と連携した研修を行っている。 ・連携企業からの情報を共有する事により各教員の資質向上に活かしている。 ・令和4年度企業と連携した研修実績 航空整備学科:コロナ禍により延期されていた一同参加の教員研修が3年振りに実施出来た。又、個別の研修も3回参加出来た。 グランドサポート学科:コロナ禍の影響を受けたが、企業研修1回、協会研修1回参加出来た。	13:人材育成目標の達成に向けて、教員一人ひとりが自ら自己研鑽に努めると共に、業界団体や企業等との連携を図っていく。また、そこで得た知識や経験を教育活動にフィードバックし人材育成の指導力向上に繋げていく。
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	関連企業と連携した研修を行い、職員の能力開発に努めている。	14.:今後、航空技術協会をはじめ専門分野に関する研修への参加を計画し、更なる能力開発に努めたい。

（4）学修成果　　評価　３．６（前年評価 3.8）

（4） 学修成果　　評価 ： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	就職率の向上が図られているか	4	・令和4年度の就職内定率は100%（令和3年度と同様）。就職対象35人に対し全員が内定した。 ・継続して 第1志望企業への100% 就職を目指し、補習教育・通常授業外面接指導にて就職内定率100% 維持を目指した。 実績として全員が第一志望とはならなかったが、コロナ禍の影響も乗り越え100%を達成した。 （＊）卒業生は総勢36名、当初卒業予定者全員が就職希望であったが、1名自己都合で内定を辞退した。	1： ・第一志望企業への内定を獲得するため、SPI、面接指導、企業研究、就職に有利な資格の取得等、就職指導の内容を引き続き向上させていく。 ・SPI（一般教養）に関して、令和5年度は選任教師をアサインし就職活動に活かしたい。
2	資格取得率の向上が図られているか	3 前年評価4	・資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行っている。 ・航空整備学科では、二等航空運航整備士資格取得は受験者13名に対し、12名が合格。授業以外、放課後・休業期間中に資格試験対策授業を実施し、合格率向上を図ったが1名は残念な結果となった。 ・グランドサポート学科では、危険物（乙種第4類）の合格率は合格者ゼロと言う結果になった。過去当該資格の合格率が低迷し種々対策を講じてここ2年間は改善が見られたが、今年度は残念な結果になった。 ・危険物資格の取得実績は、航空整備学科 17名受験し 5名合格、グランドサポート学科 10名受験し、合格者なし。 ＊前年評価は4、航空整備学科・グランドサポート学科共に資格取得率が記載の通り実績が下がったことから評価を 3 とした。	2： ・航空整備学科：航空従事者養成施設として、二等航空運航整備士資格取得は責務と捉えている。1学年時にコース分けを実施するが、各学生の学力を含め見極めの見直し（適正試験の実施）を検討する。 ・グランドサポート学科：危険物乙種第四類の合格率40%を目指す。～結果が伴っていない現状を直視し、当該資格の取得意義等をじっくり説明し、学生のやる気を引き出し、取組む姿勢を見直して合格率向上につなげたい。 ・上記以外の資格取得率向上に向けた施策を各学科で継続してゆく。
3	退学率の低減が図られているか	4	・欠席が多い学生に対し、早い時期から担任・学科長が保護者と連携して対応している。 ・令和4年実績：退学者1名（0.5%）（令和3年実績：2名） 退学者１名は種々の理由から欠席が多く、進級には可能出席時数であったが、航空従事者養成施設として規程上の最大欠席時数をオーバーしたことにより自主退学となった。	3：心身面や経済的な事情を抱えている学生に対して、継続して各学科と教務・進路情報・事務部が連携を図っていく。又、各担任が学生とコミュニケーションを密にし、小まめな対応を継続する。
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	社会的活躍については、必要に応じ可能な限り情報収集を心掛けている。在校生の状況は担任が把握しており、必要に応じて校務会議で報告している。	4・5： ・学科では、卒業生の勤務先企業等（学科特有の業界）と交流する機会を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく。 ・教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	・卒業生の動向は、広報を中心にキャンパスガイド・媒体誌の記事作成のための取材を通じて本人や企業からの情報を収集し、教育活動の改善に役立てている。 ・卒業生の来校時を捕らえて自身のキャリア形成状況を聞き取り、在校生の授業や学科運営に反映している。	

（5）学生支援　　評価　３．８（前年評価 3.7）

（5） 学生支援　　評価 ： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	・進路・就職に関する担当者、学科ごとに就職担当者を配置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のため進路指導室を設置している。求人情報は管理されており閲覧可能な状態である。又、両学科共にカリキュラムとして「就職指導」の授業を設け支援している。 ・就職先の選択肢を拡げるべく、新たな就職先につき担当者間で協議検討を重ねている。 ・R3年度からグランドサポート学科の教室が西棟に移動したことから、グランドサポート学科用求人情報掲示板の移動を行い、学生の目に触れる機会を増やした。又、就職内定者の紹介ボードを東棟一階に設けた。新校舎移転（＊）に伴い西棟一階の掲示版も移設。（＊）2022年8月22日に移転	1： ・学生を就職させることは学校の使命であり、全員が内定を得らえれるよう継続してその支援にあたる。 ・より綿密な就職支援を実現するため、就職担当者と各学科の担当者と連携を密にし、きめ細かい就活支援に努めていく。
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	学生相談に関する体制は、クラス担任を中心に学科及び教務課により支援している。日常の学生行動を注視して悩み等を把握するように努め、担任を中心に保護者を交えて対応を行っている。	2：学生相談において メンタル面で問題を抱える学生への対応については、担任を中心に校内組織で事態の深刻化を回避する体制を整えている。
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	学生の経済的支援については、高校の成績による入学金免除制度、日本学生支援機構奨学金、茨城県奨学資金、教育ローン等の支援体制があり、募集要項に明示している。	3：学生に対する経済支援では、成績優秀者に対する特待制度なども含め 、経済的に不利であっても努力し ている学生への支援を検討する。
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	・学生の健康管理を担う組織体制は整備されている。保健室を設置しており、職員室前にAEDも設置している。 ＊コロナ禍に於ける学校での感染防止対応は文科省、茨城私学振興室よりの指針（学校に於ける新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル）に従い対応した。 ＊昨年度（令和4年）の新型コロナウイルス感染者は26名、 濃厚接触者は20名と令和3年度に比較し大幅に増加した。 ＊令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が 5類感染症に移行したことから文科省、私学振興室からの指示に従い、特段の感染症対策は取りやめている。	4：引き続き文科省、私学振興室の指示に従い必要に応じて専門機関に協力を依頼し対応する。
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	以前は一部学生から部（クラブ）の創設の声もあったが現在はない。学生に時間的余裕がないこともあり、現状は課外活動に対する支援体制は実施していない。	5：サークル（部）の設置は、今後学生の希望を把握し、体制を検討していく。 現在、昼休みと放課後にエプロンの一部を運動スペースとして解放し多くの学生が利用している。 ＊運動用具として、野球用グラブ・ボール、サッカーボール、バドミントンラケット等準備している。

6	学生の生活環境への支援は行われているか	4 前年評価3	・校舎新築（1号館）に伴い、学生の学習環境は改善された。 ・以前（令和2年度まで）は食堂を完備していたが、新校舎建設に伴い運営と経費上の観点から廃止となった。食堂に替わる昼食の手当は、以前から実施している弁当による注文受付を継続している。 ・生活面では、通学の便を図るためのスクールバスを運行しており、自動車・バイク通学をする学生には駐車場を完備している。 ・通学が困難な学生のために指定寮（2食付）を紹介している。 ＊前年評価は3、新校舎建設に伴い学生の学習環境が改善されたことから評価を 4 とした。	6：毎日の弁当手配は継続しつつ、並行して安定的な昼食の手配（デリバリー体制の構築）が得られるよう検討する。
7	保護者と適切に連携しているか	4	学生指導面を中心に担任が保護者と連絡を密に対応している。状況に応じて学科長や教務課が関わっている。	
8	卒業生への支援体制はあるか	4	・卒業後の継続学習や資格取得の支援を行っているが、近年は実績がない。（卒業生からの要望がない） ・航空整備学科：平成30年度に卒業生1名を受入れ、本校で2等航空整備士を受験し資格を取得した。 ・グランドサポート学科：令和2、3年度と卒業生の就職先企業に於ける特殊器材運転資格取得訓練を受け入れ、学校の器材を提供した。昨年度は実質的な訓練はなかったが、卒業生8名が来校し就職先での活動状況を聞き取り助言を実施した。	8：当校として、卒業後3年未満の学生に対して就職活動への支援を今後も積極的に行っていく。
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	・令和2年度以降の実績はなく、過去の実績を記載する。 ①令和元年度：企業職員の資格取得支援のため施設設備を貸し出した。（基本技術Ⅱの国家技能審査を当校にて実施） ②平成30年度：企業職員の資格取得支援（工場整備士資格取得）のため、教官1名の派遣を行った。 ・今後は、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備、検討していく。	9：社会人や企業からの要望を収集し、可能な範囲で講習会や講師派遣、施設の貸し出し等継続して行く。
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	・高等学校からの依頼により、職業教育の一環として模擬授業を継続して実施しており、好評を得ている。 ・令和4年度の実績：2校にて開催。	

（6）教育環境　　評価　3．6

（6）教育環境　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	・2等航空運航整備士・基本技術Ⅱの航空従事者養成施設としての施設・設備は整えている。2年毎に実施される航空従事者養成施設更新検査にて施設検査も行われ適切に対応している。 ・専門教育に必要な施設設備は指定基準を満足しているものの中長期計画の中で、実験実習機材等の一層の整備・充実を図る必要がある。	1：今後予想される 学生増への対応と 国土交通大臣指定 航空 従事者養成施設 として十分な実習を行う為、施設・設備の充実を図る。
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	・各学科に合わせた実習・企業研修は整備されている。 ・現在企業研修という形で、グランドサポート学科を中心に内定先企業に参加し有効に機能している。	
3	防災に対する体制は整備されているか	3	地震・火災を想定した防災訓練は年1回計画しているが、令和4年度は実施出来なかった。	3：防災体制の強化として、取手消防署と連携した防災訓練も検討していく。

（7）学生の受け入れ募集　　評価　４．０

（7）学生の受け入れ期間　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	・令和4年度の学生募集活動は適正に行った。 令和5年度入学者数の実績では対令和4年度11%増と増えてはいるが、令和4年度の入学者数が対前年28%減と厳しい結果である為、実質的に厳しい結果となった。 ・令和4年度もコロナ禍であったが、募集活動の中心である高校訪問を実施した。実績は479件で対前年88%であった。 ・オープンキャンパスを積極的に開催した。 前年同様コロナ禍での開催ではあったが、今までの経験を活かして開催。実績として29回開催。（体験型17回、見学会12回） ・新たな取組みとして全国工業高校校長協会主催の工業高校の先生向けイベントを開催し、航空業界の認知度向上を図った。 航空整備学科：航空機整備工場見学会を開催、実績は2回開催（8、12月）で12名の参加があった。 グランドサポート学科：エプロン見学会を開催し、実績は3回開催（6、8、11月）で25名の参加があった。 ・総合型選抜（AO）入試も継続して活用した。 実績：グランドサポート16名、整備4名 ・イベントとして、高校生対象の職場見学会（空港見学会）と中学生対象の学校見学会を開催した。実績は、空港見学会3回で25名参加、学校見学会は1回で6名の参加があった。 ・昨年に引続き、Webを利用したライブオープンキャンパスを定期に開催した。このライブを視聴した学生の内16名が当校のオープンキャンパスへの参加につながった。
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	学校パンフレット、ホームページ、進学情報媒体等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介している。高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供も行っている。 継続的な高等学校への訪問により、高校教員の航空分野の将来性についての理解、信頼出来る航空専門学校としての位置付け向上に繋げている。
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	学納金等徴収する金額はすべて明示しており妥当なものといえる。また、入学辞退者の授業料返還については、文部科学省通知の趣旨に基づき適正に取扱っている。 学納金の支払い方法は分割でも可としているが、事前に提出されている納金計画通りに納金していない学生について、適切に納金してもらうため、学科・担任と情報共有を行い、学生への働きかけや納金計画の確認などを行える体制を構築している。

【今後の改善方策】

1：
・令和4年度に引続き、国内広報課と連携したイベントを企画し、積極的な参加で入学者増を目指す。
①高校生対象の職場見学会と学校見学会の開催。
②工業高校の先生向けイベントとして、全国工業高校校長協会主催のエプロン見学会、航空機整備工場見学会を開催し。航空業界の認知度向上を図り入学生増に繋げたい。
・オープンキャンパスについては、回数の見直し（削減）と内容の充実を図り、短期集中型で入学者増を目指す。
・総合型選抜（AO）入試も継続し活用する。
・令和5年度のWebを利用したライブオープンキャンパスは、各空港と航空宇宙関連企業からの定期的なライブ配信を企画している。

2：昨年に引続き、連携企業イベント見学会（空港見学会・航空機整備工場）を高校の先生向けに開催（夏季に予定）することで、航空業界の認知度向上を図り学生募集に繋げたい。

（8）財務　　評価　４．０（前年評価 3.7）

（8）財務　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	令和4年度決算も前年度に続き、教育収支、経常収支ともに黒字であり、財務基盤は安定している。
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 前年評価3	令和4年度予算、収支計画に従って運営されている。 ＊前年評価は3、コロナ禍の影響はあったが、前年に比較して計画通り運営されたことから評価を 4 とした。
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による年2回の会計監査が法定通り行われている。
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページへの公開ほか希望者への閲覧体制を整えている。

【今後の改善方策】

1：財務基盤の安定には、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかなくてはならないことを全教職員の共通理解として取り組む。

（9）法令の遵守　　評価　３．６（前年評価 3.7）

（9）法令の遵守　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいた学校法人運営、学校運営を行っている。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報保護に関する対策は、法律及び学校法人で定めている個人情報管理規程に則り学内情報の管理を実施している。しかし、情報の取り扱いが社会問題化していることからも教職員間の再認識、共通理解が必要である。
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3 前年評価4	・自己評価に関しては、学校関係者評価委員会開催前に自己評価委員会を開催し実施している。 ・自己評価委員会では分析検討を行って問題はないが、分析、課題、改善方策を含めてその過程に於ける情報共有について改善の余地がある。 ＊前年評価は4、上記の如く改善の余地があることから評価を 3 とした。
4	自己評価結果を公開しているか	4	評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。

【今後の改善方策】

2：学校法人で定めている個人情報管理規程をもとに、個人情報の取り扱いに関する体制・基本ルール、保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぎ、情報管理に関する社会的責任について教職員の共通理解を図っていく。

3：評価結果の分析により課題点を明確にすること、その課題をどう解決していくかまでの検討をしっかり行い、実行に移すまでの流れを構築していく。

（10）社会貢献・地域貢献　　評価　３．３

（10）社会貢献・地域貢献　　評価　：　適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	・令和2年度以降、学校の施設活用についての実績はないが、各種国家試験会場として教室の提供を行っている。 英語検定は令和元年度まで実施。 ・当校は所在地である小堀地区の災害時避難場所に指定されている。校名変更と校舎の変更に伴い、取手市との協定見直しを行い、協定書のコピーを区長さんに手交した。 ・エプロンを緊急時のドクターヘリの離着陸場とし、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。 ドクターヘリの実績は過去3 回（2018年8/3日、2020年8/5日、2023年4/4日　） ・令和４年度、当校にて求職者支援訓練（＊）を当校の教室を利用し開催した。（令和3年度より実施） （＊）厚生労働省管轄の独立行政法人が主催し学校法人が実施。	1：社会・地域貢献のために、学校の施設提供を積極的に進める。
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	ボランティア活動 については、学生個々にて実施している。以前（令和元年度）学校地域である取手市小堀地区の清掃活動に学生/教員で参加した。引き続き学校全体として積極的に奨励、支援していく。	2：ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられ、活動支援ができるよう体制構築を考える。
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3	・過去の実績として、業界人向けの教育受託として、企業職員の資格取得支援のため教官の派遣を行った。 ・近年派遣の機会はない。	3： ・今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討していく。 ・地域貢献のために各種国家試験会場提供や、地元の小・中学生を対象とした職業観の育成に役立つ講座等を検討していく。